

# ご存じですか？漂着廃ポリタンク

2008年1月から、日本海沿岸を中心に、多数の廃ポリタンクが漂着していることが確認され、問題となっています。

本県でも、2008年2月にうるま市で、強酸性の液体が入っている廃ポリタンクが発見されたほか、離島を含む県内各地の海岸で廃ポリタンクの漂着が確認されました。2007年度に確認された漂着廃ポリタンクは260個であり、そのうちの90個に内容物が確認されました。

漂着廃ポリタンクの問題の一つは、内容物に劇物や毒物等の有害な物質が含まれている危険性があることです。有害な物質が含まれている場合には、健康被害や環境への悪影響が懸念されます。そのため、本県でも漂着廃ポリタンクの内容物について分析を行いました。

今回の分析結果では、漂着した廃ポリタンクの内容物は、大半が海水や淡水でしたが、中には塩酸が主成分のものもありました。塩酸は、眼や皮膚に触れると炎症を起こしたり、その蒸気は鼻や喉の粘膜を刺激して咳が出る等の有害性があり、劇物に指定されていて大変危険な液体です。

漂着廃ポリタンクには、内容物を示すラベルが付いている物がありますが、ラベルの表記と実際の内容物が一致するとは限りません。今回調査した漂着廃ポリタンクの中には、ラベルにH<sub>2</sub>O<sub>2</sub>(過酸化水素)と表記されていたにも関わらず、内容物から塩酸が検出されたものもありました。

漂着廃ポリタンクは、ラベルの有無や表記等には関係なく塩酸等の危険物が入っている可能性があります。漂着廃ポリタンクを発見した際には、安易に触れずに、発見場所の市町村へ連絡するようお願いいたします。

【環境科学班】



写真1. 海岸漂着ゴミの様子



写真2. 漂着した廃ポリタンク



写真3. 漂着廃ポリタンクのラベル

**廃ポリタンクを発見した際には、安易に触れることなく、発見場所の市町村へご連絡ください。**